

私の名前はユリコ・ディパスピル・クニマサ、21歳です。私は母の国であるフィリピンで生まれ育ちました。

私が日本国籍を失ったことを初めて知ったのがいつなのかは正確には思い出せません。私が小さかった頃、私の父は日本人だけれども、私は日本国籍ではないと言われました。私はフィリピン人です。その頃は国籍とは何かを知らなかったため、私にとって問題はありませんでした。

私が成長していく中で、私はクラスメートからなぜ私は日本人ではなくフィリピン人なのかとよく聞かれました。そんな時、私はとまどい、とてもつらかったのです。私は友人たちから、私の父親はどこにいるのか、どうして私は日本にいかないのか、どうして私は日本の習慣を家で行わないのか、などと聞かれたのです。

私は婚外子で望まれずに生まれてきた子どもだと思われたため、フィリピン人としても見下され差別を受けました。例え私の父が私と母を捨てたことが本当だとしても、私が差別されたのは、他の理由からでした。でも、私の母は私を差別から守ってくれました。私たちは経済的にゆとりがあるということを見せるため、母は一生懸命に働きました。母はとても忙しく、そのために、私は母と一緒にいるための時間をたくさん失ってしまいました。そして、母は働きすぎがたたってしまい病気になってしまいました。

現在、私は看護師として働いています。21歳で大学を卒業し、国家試験に合格し、安定した仕事を得ました。また、私にはこの先にたくさんの仕事の機会があると思います。もし日本国籍を取得できれば、私は日本の習慣や遺跡を学ぶために日本を見て回りたいと思っています。私のもうひとつのアイデンティティを確認するために、私はそうしたいのです。私が置かれている全ての偏見から解放される事。それが私の最大の夢です。

(署名済)

---

ユリコ・ディパスピル・クニマサ